



# 国際交流ひろば

# 2

月号

## KAGOSHIMA INTERNATIONAL ASSOCIATION NEWS

VOL. 260/ February 2023

### 「災害時外国人支援ボランティア養成講座」

災害が起こった時、日本語が分からない外国の方は特に不安を感じるはずですが、災害時であっても外国の方が安心して過ごすことができるように、言葉のサポートをするボランティアを養成します。あなたの語学力を活かしてみませんか？

**対面とオンライン**が選べます！※日程が異なります

#### 対面方式

**2.12** (sun) 13:30~16:40

会場：かごしま県民交流センター1階 会議室 A

定員：20名(要申込・先着順)

参加費：無料

※講座内容や申込方法などの詳細はこちらからご確認ください →



#### オンライン版

**2.26** (sun) 13:30~16:40

定員：20名(要申込・先着順)

参加費：無料

※申込後に zoom の ID をお送りいたします。

【問合せ先】(公財)鹿児島県国際交流協会  
TEL:099-221-6620

## 鹿児島県国際交流協会からの お知らせ

### 「ベトナム理解講座」

～ベトナムのテト(旧正月)とドンホー版画の紹介～

**2.23** (thu (holiday))  
14:00~16:00

会場：県民交流センター東棟3階 大研 2

定員：30名(要申込・先着順)

対象：小学生以上

【申込・問合せ先】

TEL:099-221-6620

Email:kia10@kiaweb.or.jp

### 「民間国際交流活動助成金」

交付申請受付中！

(※令和5年度上期(4月~9月)実施事業対象)

**1.4 ~ 2.28**

(公財)鹿児島県国際交流協会では、国際交流等の活動に対し、助成をする支援事業を行っています。

当協会のHPで助成金交付対象となる団体や事業についてご案内しています。

詳しくはこちらから→



【問合せ先】 TEL:099-221-6620

# 「Kagoshima で暮らして」



鹿児島県の在住外国人の数は、年々増加傾向にあります。『国際交流ひろば』では、鹿児島で頑張る在住外国人の鹿児島での暮らし等についてご紹介しています。

今回は、薩摩川内市にある市比野温泉 旅館「薩摩の里」の女将でアメリカ合衆国ご出身の 石脇りお さんをご紹介します。

## 10歳までアメリカで育ったそうですね。どんなところですか？

アメリカ・ワシントン州シアトル郊外のポート・タウンゼントという小さな港町で、日本人の母、アメリカ人の父の娘として暮らしました。自宅は海の近くではなくて少し離れた山の方に住んでいましたが、海にはよく親しんでいて、私の両親も週末にはクーラーボックスにサンドウィッチとビールを入れてヨットに乗ったりしていました。住んでいる人たちは、皆、のんびりしていましたよ。



鹿児島県市比野温泉  
旅館「薩摩の里」  
女将 石脇りお さん

## 来日の経緯を教えてください。

シアトルには日本から母方の親戚がよく遊びに来て、しばらく滞在することもありました。なかでも伯母は私をよくかわいがってくれて、私も「日本に行きたい」とよく言っていました。ある日、伯母がインスタントラーメンを作ってくれて、お箸で食べるよう言われました。いつもはフォークで食べていたのですが、日本にはフォークはないよって言われて。まだお箸を使えなかった私は途方に暮れて、のびていくラーメンを見ながら泣いていました。それから1週間ぐらい後に、また伯母がラーメンとお箸を出してきました。今度はお箸できちんと食べることができました。そう、悔しかったから自分で一生懸命、箸の使い方を特訓したのです。でも、どうやらそれは私を試したのだと思います。その後、伯母に連れられて、茨城の老家で育ちました。

## 鹿児島に来たのはどうしてですか？

高校、大学を卒業して、北海道で8年、東京で8年、会社勤めをしましたが、そこをやめたあと、夫と出会い、結婚しました。その頃、夫の兄がこの旅館「薩摩の里」を経営していたのですが、少し体調を壊して、夫に「帰郷して旅館を手伝ってくれないか」と要請があって、二人で故郷の市比野に帰ってきました。

## 鹿児島に来て驚いたこと、困ったことはありますか？

10歳で日本に来た時と同じように、鹿児島でも何とかなると思っていたのですが、先ずは言葉、鹿児島弁に悩まされました。義母の言葉がほとんど意味不明。そして、味付け。鹿児島の料理やお醤油が甘くて、最初はどれも苦手でした。今はもう慣れましたね。

## 日本で旅館の女将となって、アメリカのご両親の反応は？

日本人と違ってアメリカ人は個人主義なのでしょうね。20歳過ぎて、義務教育も終わって、母からは「親としての責任は終わったから、あとはあなたの人生。残り少ない私の人生にはもう足を踏み込まないでね。」と。だから、特に意見はなかったし、私も女将になって10年ぐらいはアメリカには帰りませんでした。その点、日本は子供に甘くて、いつでも帰ってきなさいと言う。ファミリーとしてのつながりが強すぎるのかなと思うときがあります。

## 日米のご両親を持つ自分のことをどう分析しますか？

日本で暮らし始めた頃、伯母から日本的な文化を徹底的に教え込まれました。礼儀作法、書道、華道など。でも、やはり、10歳までの経験は色濃くて、自分的には、日本的な部分とアメリカ的な部分がどっちもあると思います。お花を生ける時は心が落ち着くし、日本の美・和の心に惹かれます。でも一方で、物事ははっきりと言う性格で、そういう自己主張という面ではアメリカ的なのかも知れません。こういう私の変わった性格をよく理解してくれているのが夫です。

## アメリカ人の女将ということで、何か特に意識していますか？

夫と一緒に帰郷した最初の頃は、やはり「外国人」という扱いで、

なかなか、この和風旅館の仕事はさせてもらえませんでした。だんだん、私自身の好奇心やお客様の要望もあって、いろいろやるようになりました。今は夫が社長として経営面を担って、私が女将として表の顔になっています。

「アメリカ人」だからということで、特に意識はしていません。社員にいつも言っているのは、「普段どおり、地のままで、気取らないおもてなしを」ということです。以前、社長が社員の鹿児島弁を懸念して、いわゆる標準語での対応を仲居に指示したら余計おかしなことになってしまったことがありました。結局、失礼にならなければ、日本語だろうが鹿児島弁だろうが英語だろうが、ちゃんと応接して目がニコッとしていれば大丈夫。うちの旅館に来られるお客様は、堅苦しい対応を求めていないと思っています。私はいつも、お客様の予約情報の家族構成や年齢などの内容をじっくり吟味して、この「薩摩の里」に来る目的が、静けさなのか、温泉なのか、それともお仕事なのかを見定めて、お客様が求めることを少しでもお手伝いできるようにと心を配っています。

## いろいろな国の人が共存するためには、何が必要でしょうか？

国が違えば文化や価値観が違います。例えば、日本の親は他人に迷惑をかけるなど子供に教えるけど、一方でインドでは、子供は迷惑をかけないと生きていけないから、他人の迷惑も受け入れなさいと教える。だから、共存のためには直接ぶつからないよう、一定の距離(クッション)を置くことが必要だと思います。お互いを理解しようとして、とことんまでやっても結局、結論は出ない。場合によっては喧嘩別れて空中分解してしまうこともある。それは、国籍に関係ないことで、日本人同士でも「合う、合わない」がありますよね。

小さな頃、アメリカにいた時は「日本人」と言われて、日本に来れば「外国人」と言われた。私は何人だろうかと以前は考えていましたが、結局はどこに行っても自分は自分らしく生きていくしかない」と結論づけました。だから、結局、共存というのも「人間対人間」の関係性であり、国籍や人種には関係ないと思います。

## 市比野の魅力を教えてください。

過疎化が進んだ田舎であるという立地条件は、悪さではあるけれど、逆に素敵なお店でもあります。例えば、先日の満月の夜はとてもきれいでした。今、真冬なので真上に月があるのです。このような体験ができるのは、この田舎じゃないとできない。また、色々な動物が見られる。テンやモモンガとかいて、近くの林の中で何かが飛んでいると思ったら、モモンガでした。アメリカで見たのを思い出しました。また、水が豊富で、お米もおいしいし、温泉も気持ちいいですね。お客様からどこか遊ぶところはないですかとよく聞かれますが、いつもお薦めするのは旅館の周りのお散歩。山と田んぼの道を好きな方向に歩いて行って、どこかにぶつかったら戻っておいでと言っています(笑)。



旅館「薩摩の里」 外観

ゆったりした時間が流れる旅館「薩摩の里」で、四季を感じながら、海山の幸に恵まれた鹿児島の地元の料理を味わい、トロツとした感触と上がった後のお肌のしっとりスベスベ感が得られる「美人の湯」と呼ばれる温泉を楽しんでみてはいかが。

## 【旅館「薩摩の里」】

薩摩川内市樋脇町市比野4134

TEL:0996-38-1012

HP



# 「かごしまから見える世界」 Vol.12

かつてから外国との交流が盛んだった鹿児島。鹿児島県鹿島町にある「日本マンダリンセンター」をご紹介します。

## 「高台のオレンジ屋根」

鹿児島県最北端で熊本県天草の南に浮かぶ長島。この島を南北に貫く県道から折れてオレンジ色のカラー舗装されたマンダリンロードを辿っていくと、丘の上に鮮やかなミカン色（オレンジ）に輝く巨大なドーム型の屋根が



「日本マンダリンセンター全景」

現れる。30年前に強烈な印象でデビューしたミカンワールド「日本マンダリンセンター」だ。当時、まだ合併前の東町（あづまちょう）時代に、マンダリン等に関する資料の展示・保存、製品開発、国際交流、観光振興など、地域活性化を目的に建設され、さらに、建物の周辺には世界各地の柑橘類を植栽した付属園場も整備された。

## 「温州みかんの発祥地」

でもなぜ、この地に「日本」の冠を付けたミカンの研究拠点ができたのか。実は、長島は日本の温州みかんの発祥の地とされているのだ。

もともと柑橘はインドの北東部辺りが原産地で、そこから東方に、東南アジアから中国南部を経由して、九州に伝来したと思われる。江戸時代の文献に温州みかんと思われる葉付き果実が描かれ、その名は「大仲島温州」と呼ばれ「唐土より来たり。大仲島に植ゆ。故にこの名あり。」（\*仲島は長島を指す）と記されている。また、幕末に長崎に来たドイツ人医師シーボルトが温州みかんの葉っぱの標本（おしは）を作っており、そこに「Nagashima」の文字が記されていたことなどから、すでに長島で温州みかんが採れていたことがわかっていく。中国の温州府という地域がみかんの産地として名高かったことが呼び名の由来と思われるが、実際には温州府には「温州みかん」はない。そこで、戦前に台北帝国大学の田中長三郎博士が綿密な文献調査や現地調査を行った結果、中国から伝わったある種の柑橘が約500年前に長島で偶発実生（ぐうはつみしゅう）突然変異して温州みかんという種類が生まれたと結論付けた。なお、現在この温州みかんの原木の子孫である3代目、4代目の木が保存・育成されている。

## 「マンダリンちゃん」

さて、話を元に戻し、センターに入ってみよう。出迎えていたのは、昨年から指定管理者となった山上農園代表の山上博樹さん。柑橘農園を幅広く経営されているミカン栽培のプロだ。エントランスでまず目を惹くのが大きなミカン型ロボットの「マンダリンちゃん」。電動仕掛けで、スイッチを入れると顔部分が上が

昇し、中から現れた可愛らしいミカンやナスなどの人形が

ほっこりどこかレトロチックな動きで身を揺らしながら、軽快なリズムで歌を歌い楽器を演奏する。「年数も古いので撤去しようかと思ったのですが、見学に来る子供たちがこのロボットの演奏を食い入るように見つめて釘付けになるんです。センターの一番人気ですよ。」と山上さんが笑う。

奥に進んでいくと、ミカンが日本に伝わってきた歴史や経路、人物エピソードなどがパネルなどでわかりやすく紹介されている。また、土壌や害虫、栽培技術など生産に関する情報も展示されている。さらに上の階には、温州みかんの2代目木が保存展示されるとともに、学術書や過去の柑橘類調査報告書など貴重な資料も保管されている。

来館者は地元の児童生徒たちが多くいらしいが、韓国や中国の方も訪れており、昨年末には鹿児島市日中友好協会主催で中国人留学生の団体も見学に来たそうだ。

## 「温州みかん」 Satsuma

ところで、温州みかんは欧米では「Satsuma（サツマ）」と呼ばれていることをご存じだろうか。

温州みかんが初めて海外に渡ったのは1876年（明治9年）で、米国人ジョージ・ホール氏がフロリダへ苗木を送っている。そして、その2年後、1878年（明治11年）には、米国駐日大使のバン・バルケンベルグ氏夫人が鹿児島から取り寄せた温州みかんの苗木を故郷（アラバマ州）に送っている。その由縁で、現在、フロリダ州とアラバマ州には「Satsuma」という「まち」がある。特にアラバマ州の方は人口約6,800人の正式な自治体（City of Satsuma）であり、「明治天皇



「マンダリンちゃん」

## 「世界とつながるマンダリンセンターへ」

センターは、施設の老朽化もあって、最近の入館者数も寂しい状況であるのだが、山上さんが指定管理者になってから新たな動きも出てきている。以前はレストラン等が設置されていた4階、5階を、国のデジタル推進政策に乗ってネット環境を完備したコワーキングスペースと子供たちの学び場（塾）に改装している。真・最中だ。ネットは地理的ハンディを一気に解消してしまい、小さな島にいきなり世界とつながる「窓」を開いてくれる。海外に広く栽培される温州みかん（Satsumino）の発祥の地から、世界中の研究者や生産者との情報発信・交換の拠点ができあがることはもちろん、柑橘産業だけに限らず、幅広い業種の人たちがこのセンターでネットを駆使してビジネスを展開していくことを、山上さんたちは目論んでいる。さらに、長島の子供たちにもこの塾でネット経由で広い視野を持って、自ら多くのことを学んでもらい、将来、島外に進学したとしてもいざればUターンしてきてくれるような、魅力あふれる受け皿を作っていきたいと語る。

## 「思いは遙か地中海」

インド北東部を源流とする柑橘は、西にも伝播した。中央アジアを経てイタリアなど地中海に伝わったマンダリンの果皮成分を分析したところ、長島に自生する島ミカン（温州みかんではない）とその芳香成分が全く同一のものであり、しかも世界中にこの2種類のみが含まれる精油成分（アントラニレート）を共有していることが学会で発表されている。この2種類のミカンはセンター1階に写真展示されているが、殆ど同じような形をしており、島ミカンと地中海マンダリンは同じ祖を持つ兄弟同士と言えそうだ。「思いは遙か地中海」。いや、地中海にとどまらず、この長島の地から世界中に思いを馳せ、大きく飛び立つような人材の生まれることを願い、日本マンダリンセンターの今後の飛躍を期待したい。

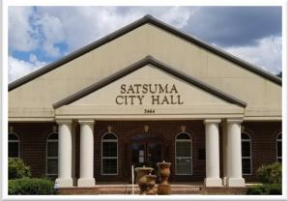
### 「取材協力」

日本マンダリンセンター指定管理者  
山上農園代表 山上博樹氏

### 「日本マンダリンセンター所在地」

鹿児島県出水郡長島町鷹巣 3786-14  
電話：0996-86-2011

HP



「サツマ市役所」

（米国アラバマ州サツマ市のHPより）

から贈られたサツマオレンジを当地に植栽し、栽培に成功したことからこの名前を付けた」と立派に書かれている。市内には「サツマ市役所」「サツマ消防署」「サツマ警察署」「サツマ高校」などあるのだから愉快だ。これらの地域から米国全土やヨーロッパに温州みかんが広がったことから、英語名としては Satsuma と呼ばれている。



世界各地で活躍する鹿児島ゆかりの方からのお便りです

# 世界あちこち、便り

「Selamat Pagi」(スラムツ パギ=おはようございます) 毎朝、マレーシアでは至る所から、この言葉が聞こえてきます。とてもステキなまちです。

## 1 「マレーシア:ペナン島の歴史と文化について」

マレーシア:ペナン州は人口約177万人、首都クアラルンプールに次ぐ州で、その中心のペナン島は約75万人が住んでいます。飛行機で日本からマレーシア・首都クアラルンプールまで約7時間、さらに国内線でペナン島まで約1時間かかります。ペナン州ペナン島は南北24km、東西15kmの島です。18世紀後半、プリンス・オブ・ウェールズ島と呼ばれていたペナン島は、イギリスの東インド会社が東南アジアに進出する拠点として、また東西貿易の中継地として発展し、西洋、中国、インド、イスラム圏の文化が融合しエキゾチックで、ノスタルジックなマレー文化が生まれてきました。また、ペナン島の北部は美しいビーチが広がり、憧れのリゾートステイも楽しめる場所です。島の中心は「ジョージタウン」で、2008年にマラッカ海峡の歴史都市群として世界遺産に登録されました。多様な歴史と文化を反映した建築様式の建物や街並みが多く残され、世界遺産として人気を集め、多くの外国人が訪れています。



## 2 「現地教育について」

マレーシアは、歴史的背景からマレー系、中国系、インド系と多様な人種の国です。また、歴史的背景から多民族社会が形成されているため、学校においても言語や宗教の違いを尊重した教育が行われています。現地の小学校は日本と同じ6年間で、国民小学校(マレー語での授業)と、国民型小学校(中国語・タミール語での授業)と、英語での授業のインターナショナルスクールもあります。マレーシアは、日本と違って、児童生徒数が多く、学校数が不足しているために、多くの学校が午前と午後の二部制となっています。また、驚くことが1つあります。それは、日本の全国学力学習状況調査と似ているところはありますが、小学校6年で全国統一テスト(UPSR)があり、その成績に応じてレベルにあった中学校へ進学することになっています。その後は、中学校3年間、高校2年間、大学予備校2年間、大学4年間となっています。もっとびっくりしたことがあります。それは、高校2年生の修了時に全国統一テスト(SPM)があり、これに合格しないと高校卒業の資格を得ることができないそうです。

## 3 「世界に届け!PJS(Penang Japanese School ペナン日本人学校)のかがやき!」

ペナン日本人学校の特色ある教育活動は、ESLの英会話授業です。現地採用教員(マレーの先生)が、直接対面のALL Englishで、習熟度に応じて各学級を3クラスに分け、週2~3時間の英会話の授業を行い、英語力の向上を目指しています。また、体力と泳力向上を目指し、年間を通して週1時間の水泳授業と、学校独自の水泳記録会も実施しています。さらに、様々な学校と国際交流活動を行っています。インターナショナルスクールやマレー系の現地校、大学などと交流を行い、学習した英語やマレー語を活用し、創意工夫した内容で日本文化を紹介したり、それぞれの学校の特色やマレー文化に触れたりしています。このことは、異文化のよさに触れ、相手の文化を尊重し、日本人としての自覚と愛国心を育てる意味もあります。また、小中一貫校としての運動会では、小学生から中学生までを縦割りにし、紅白に分かれて競技や中学生が小学生に隊形やふりつけなどを指導する応援合戦などもあります。学習発表会「ベスタ ブンガラヤ」では、演技のオンライン発信や、小中学生合同の全校合唱、各学年の劇や学習発表などを行い、本校の素晴らしさが凝縮されています。

ペナン日本人学校は、一人一人がみんなのために、みんなが一人一人のためにしっかりと寄り添って、何事にもポジティブに、児童生徒のため、学校のために一生懸命取り組むとても素晴らしい学校です。児童生徒達には、ペナン日本人学校から夢と希望をもって、これからの新しい時代に向かって羽ばたいてほしいと思っています。



↑ペナン日本人学校(上空から撮影)



三原 一樹 教頭先生  
(マレーシア・  
ペナン日本人学校派遣)

シニア派遣  
前 出本市立大川内小学校校長

## 特定非営利活動法人 マザリープロジェクト

鹿屋市

### ◆マザリープロジェクトとはどのような団体ですか？

いろいろな国際交流活動にかかわっていく中で、外国籍の方々が本当に困っていることに対して手を差し伸べられていないままの状態である事を痛感し、地域に住む外国籍の方々が生き辛さを感じることなく、笑顔で生活できるようになってほしいという思いから設立いたしました。



日本語教室の様子

### ◆どんな活動をしていますか？ また、県民の方はどのように関わることができますか？

大隅半島、特に鹿屋市を中心に外国籍の方々の生活支援・学習支援・日本語教室の開催及び地域住民との交流活動等を行っています。生活支援では、病院・学校・役所などの公的施設へ付き添い手続等の手伝い等を行ったり、書類等の翻訳や通訳を行ったりします。子供たちの学習支援等も行っています。

県民のみなさんには、ボランティアとして参加していただくのはもちろんですが、地域住民の方々との交流イベント等に参加し、交流してその人の国のことを知ってあげてください。鹿児島のことを教えて差し上げてください。お互いに理解し合えば互いの距離ももっと近くなれますよ。

### ◆県民の方へメッセージをお願いします。

様々な国の方々が鹿児島で皆さんと生活していっぱいいます。不便を感じている方や困っている方がいらっしゃったら声をかけて差し上げてください。



「ボンカン狩り」の交流活動の様子

特定非営利活動法人 マザリープロジェクト (代表:和田)  
TEL:090-5020-8026 Email: aiueosumi.japanese.class@gmail.com

Facebook



## かごしまの国際交流団体紹介



## DANKA DANKA

鹿児島市

### ◆DANKA DANKAとはどのような団体ですか？

海外で活動する環境 NGO です。先住民や青年層をパートナーに、多様性を理解し相互に学びあう場を提供するために設立しました。

### ◆どんな活動をしていますか？また、県民の方はどのように関わることができますか？

現在は、西アフリカ・セネガルの DANKA 果樹農園で、日本の自然採卵養鶏の技術をセネガルの環境に適した技術にする実験をしています。セネガルの鶏を幸せにし、ヘルシーな採卵養鶏を普及させる事が目的です。飼育実験をもとに現地語の HOWTO 動画テキストを制作中です。また、環境意識のある次世代育成のため、ジャマティール小学校と連携し鶏の学校飼育を開始しました。

また、県民の方には、下記の内容で関わっていただけます。

- ◆国際交流に関心のある小学校へ — ジャマティール小学校が日本の小学生と友達になりたいそうです。
- ◆アニマルウェルフェアに関心のある次世代へ — HOWTO 動画の日本語ナレーションチームを編成したいです。ボランティアメンバー募集！
- ◆県内でワークショップ等の企画・実施を担当するサポーター募集！ — 素材は卵殻・アフリカ布・アランビック蒸留などです。
- ◆共感するものの時間的余裕のない方へ — 会費サポーターや“卵♡SDGs”お話会への参加、FB“いいね”協力・シェアリング等々。

### ◆県民の方へメッセージをお願いします。

“卵♡SDGs” 地球上の鶏も人も幸せになれるよう動き始めましょう！  
共感する方は2月中にご連絡ください。



← Diamathill 小学校の先生たちに「鶏の孵化」を動画テキストで研修中

DANKA DANKA (代表: 西村 宏子)  
Email: camp@dankadanka.org

Facebook



HP



SDGs や JICA 海外協力隊、JICA に関する出張パネル展を実施しています。様々なイベントや施設での展示も実施しており、国際協力や国際理解への入り口として、ご活用頂いております。内容や日程など、お気軽にお問い合わせください。

<実施例>

○ショッピングモールや、地域イベントでのパネル展示



○パネル展示と合わせて、協力隊体験談や異文化体験ワークショップの実施



パネル展示の実施方法は様々です。

例えば、、、

- ・展示と合わせて、協力隊OBの話聞く機会を設けたい
  - ・SDGs パネルを通して、私たちにできることを考えたい
  - ・地域イベントで国際協力の話題を取り入れたい など
- ご要望に合わせて、対応させていただきます。  
お気軽にお問い合わせください。

JICA デスク鹿児島 担当: 仮屋 TEL: 099-221-6624 (公財)鹿児島県国際交流協会内



がいこくじん そうごう そうだんまどぐち  
**外国人総合相談窓口**

かごしま す がいこくじん かた そうだんまどぐち  
鹿児島にお住まいの外国人の方のための相談窓口です。生活、在留資格、労働、医療、福祉などで困ったことがありましたら、お気軽にご相談ください。

たいおうげんご にほんご えいご ちゆうごくご かんこくご  
**対応言語** : 日本語/英語/中国語/韓国語/ベトナム語/  
タガログ語/インドネシア語/ネパール語/クメール語/タイ語/  
ミャンマー語/ポルトガル語/スペイン語/マレー語/  
フランス語/ロシア語/ドイツ語/イタリア語/モンゴル語/  
シンハラ語/ヒンディー語/ベンガル語/ウクライナ語

かごしまけん こくさいこうりゅうきょうかいない  
鹿児島県国際交流協会内  
TEL : 070-7662-4541  
E-mail : kiasoudan@gmail.com



本誌・掲載内容に関する問合せ・申込み先

公益財団法人鹿児島県国際交流協会  
(火曜～日曜 9:00～17:00)

〒892-0816 鹿児島市山下町14-50  
かごしま県民交流センター1階  
Tel: 099-221-6620 Fax: 099-221-6643  
URL: <https://www.kiaweb.or.jp/>  
Email: [kia@kiaweb.or.jp](mailto:kia@kiaweb.or.jp)  
Facebook: <https://www.facebook.com/Kagoshima.Intl.Assoc>

「国際交流ひろば」は、ホームページにも掲載しています。ご自由にダウンロードしてください。